

マルチスライス同時使用を模擬した 伝送遅延測定と経路制御のデモ

研究の概要

Beyond 5GネットワークはeMBB、URLLC、MIoT、V2X等多様な種類のサービスに用いられることが想定されています。

同一のネットワークにそれらを同時に収容する場合、ネットワーク側はスライスを複数化し、それぞれの特性に合わせた帯域や遅延制約を設定することが想定されます。

本研究では、アプリケーション開発者向けに、UEのIMSI毎に特性の異なるネットワークに接続させる環境を提供します。

テストベッドの活用シーン

B5Gモバイルテストベッド モバイルアプリケーション開発環境（A面）は、Beyond 5Gに求められる多種多様なアプリケーションを中心とした技術の研究開発・実証のための環境です。

本デモンストレーションでは、下記の状況を想定して、A面において、UEのIMSI毎に指定したネットワークに接続させるデモンストレーションを実施します。

- 管理者が異なるDNへの接続（BYONへの接続）
 - 上流JGN / 上流SINET
- 品質が異なるRAN（アプリケーションごとの使い分け）
 - 低遅延・狭帯域 / 高遅延・広帯域

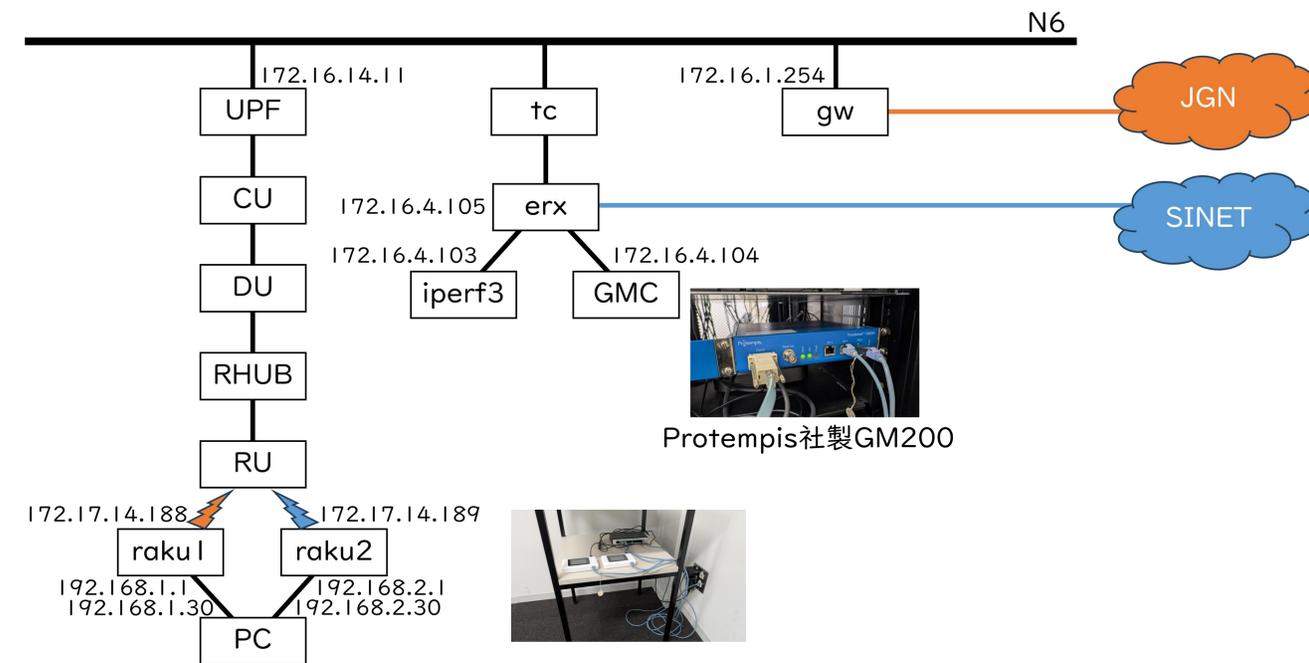


図1 デモンストレーション環境

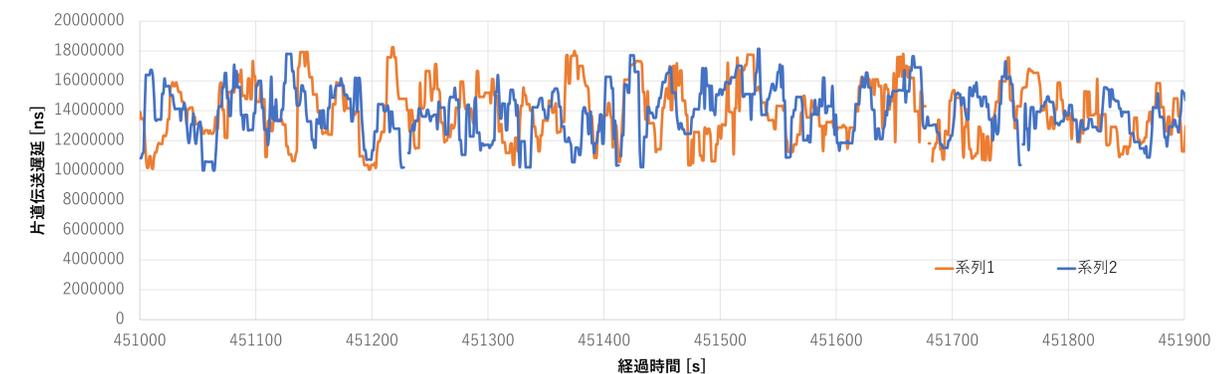


図2 A面環境での片道伝送遅延（遅延調整前）